

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成25年 7月19日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科

職 名・学 年 博士後期課程 3回生

氏 名 飯 田 玲 子

助 成 の 種 類	平成25年度 ・ 若手研究者在外研究支援 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	アジア研究者国際集会		
発 表 題 目	Culture that Mediates: Popularization of <i>Tamāsā</i> in Urban Western India.		
開 催 場 所	マカオ大学(マカオ共和国)		
渡 航 期 間	平成25年 6月23日 ~ 平成25年 6月28日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有( 会議への参加証明書 )		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	150,000 円	
	使用した助成金額	150,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳	往復航空券	:78,130円
		宿泊費(1泊10,000円×5日)	:50,000円
		香港-マカオ往復交通費(船舶代)	:8,000円
		関空-京都往復交通費	:6,400円
マカオ内での交通費(5日分)	:5,000円		
発表資料印刷代	:5,000円		

## 「成果の概要/飯田玲子」

### 【概要】

報告者は、2013年6月23日～28日の間に、マカオ大学（マカオ共和国）でおこなわれた **8th International Convention of Asian Scholar**（以下、ICAS 8）に参加した。ベネチアンホテルのフロアを借り切って運営しており、世界中からアジアを研究する研究者達が集まった。報告者は、*The Transformation of South Asian Performing Arts in the Age of Globalization: An Anthropological Analysis* というパネルのなかで、“**Culture that mediate: Popularization of Tamāśa in Western India**”というタイトルで報告をおこなった。

このパネルは、2010年より国立民族学博物館の共同研究「グローバリゼーション下で変容する南アジア芸能（研究代表：松川恭子・奈良大学）」のコアメンバーによって組織されたものである。そして、ICAS 8に参加する以前から研究会でのディスカッションを通して、方向性や枠組みについて議論を重ねてきた。今回の会議への参加は、これら日本で積み上げてきた成果を海外に広く発信し、フィードバックを得るという位置付けのもとにおこなわれたものである。

特に今回のパネルでは、グローバリゼーションおよび、インド経済の自由化によって、芸能の形態や継承、芸能実践者の生活世界に影響を及ぼしているのかという点について発表をおこない、フロアからの質問やコメントに答える形でディスカッションをおこなうことができた。パネルのなかで報告者は、メディアの発展が芸能にもたらした変化と、経済自由化によって勃興した新興中間層が、芸能の変容に関わっている点などについて指摘し、報告をおこなった。

### 【報告内容】

報告者の調査地であるインドでは、1990年代の経済自由化以降、都市を中心に新たな中間層が勃興しつつある。報告者はそうした社会動態の中で変容する都市文化を把握するために、現在西インドを代表する芸能となりつつある、マハーラーシュトラ州のタマーシャー劇の現代的変容を中心に研究を行ってきた。現在タマーシャーは、都市中間層の間で非常に人気が高い。彼らの文化的アイデンティティの拠り所になっているといえるだろう。公演には多くの観客が詰めかけ、写真集やDVDが多数売られている。さらにタマーシャーに関わる話題は、新聞や雑誌、インターネットなどのメディアにも多く取り上げられ、人々の注目を集めている。

このような現代西インドにおける都市文化の動態を、現在新たに緊密化されつつあるグローバルな「農村－都市－海外」ネットワークの中で理解することを目的とした。特に1990

年代からのインド経済自由化以降に台頭し、購買力と政治的発言権を持つに至った新興中間層の人々（e.g. Varma, P. K. *The Great Indian Middle Class*, 1998.）が、都市文化を通じていかに自己構築を行っているかに注目した。事例としては、西インドの代表的な都市文化として顕著な成長を遂げているタマーシャー劇を取り上げ、タマーシャー劇を媒体とする中間層の自己構築の過程に注目することによって、大きく変容しつつあるインド都市文化の現代的動態を報告した。

これまでの都市文化に関わる先行研究は、宗教ナショナリズムによる文化の政治的利用や、購買力を持つ中間層の台頭に伴う、消費文化の広がりに関連付けて語られることが多かった。しかし、現代インドの中間層は、ナショナルな文化政治に動員される客体や、グローバル資本主義の消費者としてのみあるのではなく、「農村－都市－海外」ネットワークの中で、タマーシャーのようなパフォーマンス・アートを用いながら、自らのアイデンティティを主体的に構築する存在であることを明らかにした。それによって、従来のグローバルイゼーション論や都市論に再検討を迫った。このことは、政治経済における現代的変容と、中間層の自己構築という文化的問題を全体的に把握するための視座を提供することになり、急激な経済発展の果実を、受動的に享受するという、従来までの現代インド社会論の枠組みの再検討を迫ることができたといえる。

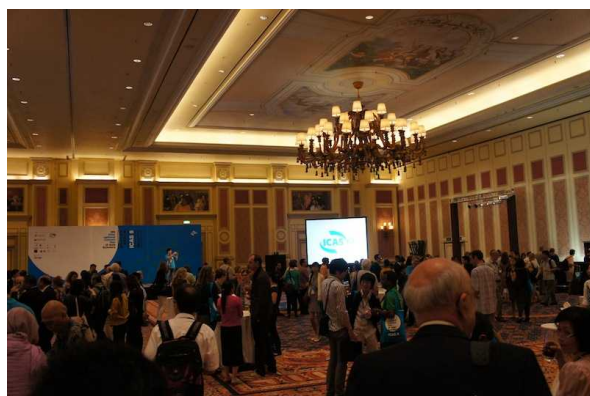


写真 1) ICAS8 のレセプション



写真 2) 発表中の報告者